芝・品川の海を語ろう　江戸前ESDしながわ塾
ミニ瓦版　第2号

東京海洋大学 江戸前ESD協議会　〒108-8477　東京都港区港南4-5-7　東京海洋大学海洋科学部

第2回しながわ塾　東京みなとクルーズ
発見・体感・航海記

師田　彰子

5月15日（土）、江戸前ESDしながわ塾第2回「芝・しながわを海から見る―東京みなとクルーズ」が、開催されました。受講生34名（うち1名は2歳児）、スタッフ17名、総員51名を載せた船の名は「マルコポーロ号」。船長は大澤浩吉さん。はじめに、本日の講師・今井健三さん（日本水路協会）から、本日のプログラムの説明や海図の読み方のご説明をいただいた後、天王洲運河のヤマツピア桟橋を離れ、好天のもと、東京湾を海から見る旅へと出航しました。受講生には、7種の海図記号（下のクイズをご覧ください）をシンボルに、7つのグループにわかれていただきました。

東京海洋大のポンドを左手に見ながら京浜運河へ進路を取り、第一ホテル東京シーフォート（第四台場跡、海堡遺構）、若潮橋を経て、品川発電所（品川埠頭）を左手に進むと広々とした東京湾へ出ました。そこは、たくさんのガントリー・クレーンが並んだ大井コンテナ埠頭の端で、巨大コンテナ船が着岸し荷役作業をしていました。赤や緑の浮標灯を「発見」しつつ青海埠頭に向かい、変針すると船の科学館が見えてきました。13号地信号所の点滅する文字信号{F}を「発見」。海上保安庁の乗組員自らの巡視船の手入れ（塗装作業）も「発見」しました。お台場にてしばし停泊。みんなで屋上デッキに上がると、青い空と海が間近に、心地よい潮風を体感!!　向こうには波を切って進むドラゴンボートの練習風景を「発見」、真っ赤な船影が鮮やかに映っていました。第3台場を後にして、晴海埠頭では日本丸が展帆する勇姿や海洋大・海鷹丸を「発見」しました。変針して復路に、再びレインボーブリッジを仰ぎ見てくぐり、ループ橋を右手に見て再び京浜運河へ。水上警察、港南大橋、目黒水門を通過してヤマツピア桟橋にもどり、接岸。しばしの間、クルーズの中で発見したものをグループ内で確認してから、無事全員下船しました。

写真（上）　天王洲ヤマツピアにて、マルコポーロ号に乗り込みます。
写真（下）第四台場の跡という天王洲アイルの石積み。

第2部の「わかちあい」では大学に場所を移して話し合いました。また、受講生の疑問や質問には、講師の今井さんをはじめ、小堀信幸さん（船の科学館）・藤塚悦司さん（大田区立郷土博物館）から興味深いお話を聞くことができました。

しながわ塾第2回目にしての大冒険、たくさんのことを見・聞・感じることができました。

（もろた・あきこ）

ここでクイズです。下の**海図記号**は何を意味しているでしょうか？（答は最後のページに。）

(a)〇〇の向きと速さを表します。　(b)石油化学コンビナートに欠かせません。　(c)モクモク煙を吐きます。　(d)頼りになります。　(e)はだしで歩くと危ないです。　(f)東京港の物流の要です。　(g)浮いています。

本活動は平成21年度㈶日本生命財団学際的総合研究助成をいただいています。

写真８　港区芝浦とお台場を結ぶレインボーブリッジの下をくぐりました。

写真７　当日は晴海ふ頭で東京みなと祭が開かれており、日本丸もお目見えしていました 。

写真２　東京海洋大学構内にある係船場（通称：ポンド）。泊まっている船は海洋大練習船・青鷹丸（せいようまる）。

写真６　お台場の石灯籠。

写真５　船の科学館。手前の水産庁専用桟橋に泊まっているのは何という船でしょうか。

写真１　今回の講師の今井健三さん（日本水路協会）。本塾の前に航路周辺を歩いて丹念に下調べして下さいました。

写真３　東京電力品川火力発電所（煙突の高さは114m）。

写真４　大井ふ頭のガントリー・クレーンの群れ。これを見た2歳のお子さんの「キリンさんがたくさんいる」の言葉に「なるほど！」と納得しました。

図１　第2回江戸前ESDしながわ塾東京みなとクルーズの航路。番号の点で採取したサンプルの水質を第３回しながわ塾で調べます。（海図は海図W1065「京浜港東京」（日本水路協会）をもとにしています。写真撮影：北島悠）

第2回 江戸前ESDしながわ塾
東京みなとクルーズ
わかちあい、ふりかえり

師田　彰子

第2部では、東京みなとクルーズでの発見について各グループの「私たちの一押し！ポイント」を発表していただきました（図2上段）。クルーズの間に記入したチェックシートを中心にして、皆さん楽しそうに話し合っていました。どれも違った「一押し」で、いろいろな視点をもって感じられたのだと思いました。

しながわ塾第2回では、受講生の皆さんに自己紹介をしていただきました。「発見」でも「質問」でも、「今日の発見」（図2中段）として皆さんにお一人ずつ発表していただきながらです。そこで披露されたみなさんの新たな疑問や質問（図2下段）には、今井さん・小堀さん・藤塚さんにお答えいただきました。本当にいろいろな質問があり、一部は「ひきつづきリサーチ」になりました。

今回は、最初に海図の見方を学び、海（船上）から「東京みなと」を観察してそれぞれ気付いた事や興味を持ったことなどを記入することで、港の自然や景観または機能などの新鮮な情報を「発見」・確認した、五感いっぱい体感クルーズとなりました。

予定時間を大幅に延長しての第2回でしたが、みなさん最後まで興味深げにお付合いくださり、また、満喫いただけたようで、スタッフとして、大変うれしく思いました。ありがとうございました。

（もろた・あきこ）

写真　東京みなとクルーズの後、東京海洋大学で「わかちあい」と「ふりかえり」をしました。

私たちの一押し！ポイント	内容（色は各チームを表わします）	
港内の自然、潮の高さ（干潮・満潮）	昔に比べ水や景観が綺麗になった！カルガモがいた	
港内・港湾の交通施設	海図でクレーンのマーク1つに対し実際にはたくさんある	水門について数が多くて絵が違う！
埋立地の利用	中央卸売市場の予定地	
港内の海洋関係施設	水上警察	海上保安庁の船は土曜日にペンキ塗り
港内に接岸・停泊している船	晴海付近の船舶	

今日の発見！

船関係	港の周辺	海図	自然環境
日本丸に乗船しマストに登りたい！	火力発電所が沿岸に！	海図が複雑	ゴミが殆ど無かった！
警戒船が芝漁業協同組合所属だった	レインボーブリッジの主塔上にアンテナ	赤と青のブイの間は速やかに通過する約束がある！	余りきれいでないところでも海上レジャーが行われていた
警戒船に乗ったおじさん	第三台場に2つの砲台&火薬庫！ペリー対策？	海図の水深はｃｍ単位まで表わす！	クラゲを発見
浚渫船のグラブ！	海上からの景観がより良い！		
官庁船の色	コンテナ船の影からスカイツリーが見えた	海図にあるフラッグを海上でも確認できた	
大陸棚調査船の清掃が船員の手で行われていた	豊洲・晴海付近は外国のよう、お台場は緑が増えた	海図では陸上の情報も精査されていた！	
ドラゴンボートの練習と5万tのコンテナ船を初めて見た	日々進化する京浜港東京区		
海上保安庁の船も船員の手でペンキ塗りが行われていた	埋立地の利用法		
	立派なガントリークレーン		

分からなかったこと

船関係	港の周辺	海図
ポンドって何？	黄色いブイは何のマーク？	海図に赤いブイが目立つが、役割は？
大井ふ頭にコンテナ船が少ないようだったが、京浜港東京区は人気がないのだろうか？	昔の台場海水浴場はどこに？	色々なフラッグ(ブイ)があるが、意味は？
外国船の滞在期間は？	お台場の灯篭はいつから、何のためにあるのか？	海図に桁下の高さ表示がされていない橋があるが、どのように判断しているのか？
京浜港東京区を出入りする船はどれくらい？	品川埠頭に4社もセメント会社がひしめきあってるのは？	
コンテナは何処で何を積むのか	品川と大井に２つも火力発電所があるのは何故？	

図2　大学でおこなった第2部「ふりかえり」では、まずグループで受講者のみなさんの「東京みなとクルーズ、私たちの一押し！ポイント」を選んでいただきました（上段）。そして、「今日の発見！」（中段）と「分からなかったこと」（下段）をカードに書き込んでいただき、全員からひとことずついただきました。（図の作成：松田祐樹）

新たな疑問、残ったままの疑問
～ ふりかえりシートから ～

- 海から見た・考えた社会学を考えたい。
- 台場の配置はどのような背景ないし考え方でおこなわれたのでしょうか。
- 水門の絵は全部違うのか？
- 赤ブイは海図に示されているが、緑ブイは示されていない。
- 航路マップ(記号)は世界共通との事でしたが、言語は日本語versionがあるんですね。英語versionだけかと思っていました。
- 橋の桁下の高さの表記がない橋もあったが、大丈夫？
- 海上保安庁と湾岸警察や水上警察の区別は？
- 水はもっと良い方向になるのか？
- コンテナーターミナルに接岸している専用船がわずか2隻。20～25くらいあるガントリークレーンがむなしい。(土日だからだろうか？)
- 海図に表記されている陸地の建造物の高さの必要性は？
- ブイの色の意味は？
- 海辺で"何か" をとっている子どもがいた。何をとっているのかな？
- 火力発電所の2ヶ所は供給先・使用目的が異なるのか？
- クレーンなど、今現在中国に追われているようです。経済政策などを積極的に政府等に頑張っていただかないと。
- 水門の絵を何にするか、だれ(どこ)が決めているのだろう？
- 大井と品川の火力発電所の電力の使い方の違いは？
- 今後の湾の発達は？国際化は？
- 地図の白地部分(5万トンクラス)の浚渫はどうやって行うのだろう？
- 財団が経営する清掃船とはどんなものなのでしょうか？ゴミがほとんど見当たりませんでしたが、専門の担当の職員がいるのでしょうか？
- 火力発電所から出る廃水の汚さ。規制とかないのか？
- コンテナが沢山あるのに船(外国の船も)が少ないのはなぜ？

今回のミニ瓦版は、師田彰子さん（全国内水面漁業協同組合連合会）にほとんど執筆いただきました。

左の写真は、マルコポーロ号に乗船し、東京みなとクルーズに出発する前に、スケジュールの説明をしている様子です。

第２回 江戸前ESDしながわ塾

芝・しながわを海から見る

東京みなとクルーズ　プログラム

日時：2010年5月15日（土）13:15-17:00

場所：天王洲ヤマツピア集合、
マルコポーロ号で東京湾へ

13:15　集合

13:30　塾長からご挨拶　河野　博（東京海洋大学）

13:35　船長からご挨拶
大澤　浩吉　船長（㈱ジール）

13:40　本日のクルーズについての講義
講師：今井　健三　さん（㈶日本水路協会）

14:00　出港
知恵袋：小堀　信幸　さん（船の科学館）
藤塚　悦司 さん（大田区立郷土博物館）

15:30　帰港、下船
（この後は自由参加です）
東京海洋大学８号館２０３教室へ移動

15:50　ふりかえり
師田　彰子　さん（全国内水面漁業協同組合連合会）
今井　健三　さん
小堀　信幸　さん、藤塚　悦司　さん

17:00　閉会の挨拶と次回のお知らせ
川辺　みどり（東京海洋大学）

参加されたみなさまへ

しながわ塾第2回では、帰港後、徒歩で東京海洋大学に行き、そこで１時間ほど「ふりかえり」をしました。初回よりもさらに長い時間、おつきあいくださり、どうもありがとうございました。

今回、講師を務めてくださった今井健三さんは、海上保安庁水路部ご出身の海図作成の専門家です。今年１月に講師をお引き受け下さって以来、船に乗って航路の下見をされたり、航路周辺をくまなく歩いて海岸の構造や施設を確認されたりと、まことに緻密に準備を進めてくださいました。ただただ頭が下がる思いです。東京水産大生時代、ボート部だった師田彰子さんと息の合ったコンビで、本プログラムを実施してくださいました。

江戸前ESDの活動ではおなじみの、小堀信幸さん（船の科学館）、藤塚悦司さん（大田区立郷土博物館）には、「知恵袋」として東京港にまつわるさまざまな事柄を教えていただきました。その博識ぶりに改めて感じ入っております。

第２回を終えて、スタッフ学生のひとり曰く「ハードルが高くなっていますね」。あと４回のしながわ塾、運営に不安はありますが、この先どう展開するのか、とても楽しみでもあります。

江戸前ESDしながわ塾事務局

１頁の海図記号の答えは次のとおりです。

(a) 潮流矢符（潮流の向きと速さ）、(b) タンク、
(c) 煙突、 (d) 水難救済所、 (e) 石浜、
(f) コンテナクレーン、(g) 灯浮標。